

## 水と緑の「うらがまち岡保」

— 顔のみえるまち岡保 —

岡保公民館

### 1 岡保地区の概要

岡保地区は福井市東部に位置する農村地帯で、豊かな水と緑に恵まれている。太古の昔からわき出ている「岡の泉」は、農業用水や生活用水として人々の生活に密着しており、地区内外からまろやかな水を求めて来る人が絶えない。岡保のシンボルである「東山」には、芝生広場や遊歩道、市内を一望できる展望台などがあり、足羽山と並ぶ市民の憩いの場として、自然豊かな里山として親しまれている。

また、地区を北陸自動車道路が縦断し、県農業試験場、県警察学校、県消防学校や、市東山公園、市クリーンセンター、市東山プールなどの公的施設がある。

史跡としては、朝倉氏と縁がある「岡西光寺」や、岡の泉との関連が深い「吉備神社」などがあり、歴史ある建物や文化財が大切に保護されている。

地区内は兼業農家が多く共働き率も高いので、3世代同居世帯が多い。昨今は、少子高齢化が進み、高齢化率が高くなってきている。平成28年11月1日現在、戸数619、自治会数13、人口2,478名である。

### 2 地区をつなぐ—公民館と各種団体の共同事業—

岡保公民館は、様々な教育事業の開催や自主グループ活動の支援をはじめ、体育祭、防災訓練、戦没者追悼会、サマーフェスタ、長寿まつり、クリーンアップ大作戦、ふるさとまつり、年賀会などのたくさんの地区事業を関係団体とともにやっている。このように、地区団体との協働や活動へのきめ細かな支援を行うことで、地域づくりの拠点としての役割を担っている。

#### (1) 「コミュニティバスOKABO」と「公民館サロン」

「福井市地域コミュニティバスOKABO」が、平成28年10月から本格運行となった。ピンク色の13人乗り中型低床バスで、「岡の泉号」と「コシヒカリの里号」である。交通弱者の方の買い物や通院などの利



便性向上と、公民館に人が集まりやすくすることを目的としている。

10月の乗車数は745人、乗車密度は3.4と順調な滑り出しである。また、公民館で開催されている「岡保いきいき長寿よろず茶屋（公民館サロン）」の参加者も増え活性化してきた。このサロンは、高齢者が健康体操、介護予防体操、脳トレーニング、スティックリング、懐かしい映画の鑑賞、歌などを楽しむ憩いの場であるが、サロンの運営に地区の方（平成28年は10名）が、サポーターとして参画していることもあり、大切な交流の場となっている。

地区では、このバスが人と人をつなぎ、元気で元気ある岡保に結びつくものと期待している。

#### (2) クリーンアップ大作戦と環境学習

地区内に、福井市クリーンセンターや不法投棄の多い東山があることもあり、地区をあげて様々な環境保全活動を行っている。



毎年9月最後の日曜日

に、壮年連絡協議会や自治会等が中心となり「おかぼクリーンアップ大作戦」を開催している。平成28年は、子どもから高齢者まで400名近くの方が公民館に集まり、不法投棄された粗大ごみの撤去や清掃活動にあたった。（燃やせるごみ630kg、燃やせないごみ630kg、布団、掃除機、テレビ、タイヤ等）

このほか、環境美化推進委員会等が「子どもたちの未来のために」「子どもたちの幸せのために」をスローガンとして、クリーン大作戦の後に「びっくりミニミニお勉強会」を開いたり、ゴミに関するパネルを作成し公民館に掲示したりして、環境についての学習や啓発活動を継続的に行っている。

このような取組が、ゴミ問題を糸口として環境について考え、それを各家庭で実生活に生かしていくという地区をあげての活動につながっている。

### 3 未来につなぐーまちづくりとひとづくりー

「岡保まちづくり委員会」では、「田んぼと山が広がる岡保で、豊かな自然と心のふれあいを大切にしまちづくり」を進めたいと様々な活動を行っている。

公民館もそれらの活動の一端を一緒に担っている。

#### (1) 東山アクアスロン大会

「東山を楽しもう部会」が中心となり、平成18年から毎年、東山プールを発着点として水泳とランニングでタイムを競う



「東山アクアスロン大会」を開催している。

全国から約300名の選手が参加していて、各種団体をはじめ約200名がボランティアスタッフとして携わったり、道で地区住民が声援を送ったりするなど、住民手づくりの大会として好評を得ている。

また、宿泊した選手を郷土料理でもてなしたり、大会当日の選手の昼食に手作りカレーを提供したりもしている。そのほか、地元で収穫したお米や地酒「岡の泉」を景品として抽選会を行うなど、この大会を通して地元色の濃い温かな岡保をPRしている。

#### (2) 岡保地区の地酒「岡の泉」

「酒づくり部会」では、平成22年から地区産のコシヒカリとわき水「岡の泉」を使った日本酒造りに取り組んでいる。

地域資源を活用して、委員会の活動を長期的・主体的に機能させるために必要な資金を生み出したいとの願いもあるが、地区内の県農業試験場がコシヒカリ誕生の地であることをたくさんの人に知ってもらいたいとの思いがきっかけである。

市内の酒造会社に依頼し、約600kgのコシヒカリで4合瓶約800本の地酒「岡の泉」を造っている。

委員会としての酒販売免許がないので、今は会員のみへの頒布だが、徐々に地区外にも会員が増えている。また「飲みやすく美味い。」と、県外へのお土産としても評判である。



#### (3) あったか事業「あったかノート」

「人づくり部会」では、子どもたちの「人と関わる能力」を育み、相手を尊重し思いやりのある人に育ってほしいと、地区内の子どもや壮年層、高齢者が、それぞれの温かい気持ちを交換し合う「あったか事業」を行っている。

活動としては、部会が「あったかノート」を手作りして学校に届け、子どもたちが、地区の方との気持ちの交流をそのノートに綴っていくというものである。小学校の協力の下、いっぱいになったノートを子どもたちがデザインした「あったかバッジ」と交換する取組もあり、意欲的に参加している。ノートには、「ゴミ出しに行ったら、〇〇さんのおばさんが話しかけてくれた。上手に話ができなかったけど、うれしかった。」「横断歩道で車の列が切れるのを待っていたら、止まって手で合図してくれた。」など、ちょっとした心の交流の記録が満載である。

部会では、この事業を通し、子どもを含め地区の人どうしが、かかわり合うことの大切さを確認し合うことができると考えている。また、「あったかノート」を地区の宝として保存し、公開することを検討している。



【あったかノート】

【デザインの表彰とあったかバッジ】

### 4 終わりに

まちづくりや地域活動が盛んである岡保地区においても少子高齢化が進み、次世代への継承とその担いづくりが課題となっている。

公民館としては、各種団体が本来の目的を認識し、それぞれの持ち味をさらに進化させ、積極的にまちづくりに貢献できるようしっかり支え、さらなる地域発展をめざしていきたい。また、特に女性や若い世代が地区の様々な活動に参画し、今後のまちづくりの要として活躍していくことを期待したい。

岡保地区では公民館を中心に人々が集い、地区をよりよくするために楽しく学び合っています。また、地区の各種団体主催の活動に参加したり応援したりすることで、人々のつながりを深めています。その要（縁の下の力持ち）は岡保公民館です。

これからも、地区の方々がすばらしい岡保に誇りをもち、人々の温かい交流がたくさん続くことを心から願っています。